

◆ 後藤 治 (ごとう おさむ)

工学院大学理事長。東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了後、文化庁へ。登録文化財制度の生みの親のひとり。工学院大学で教鞭をとり、助教授、教授を経て、現職。歴史的建築物(まち並み)の保存・活用に力を注ぐ。主な著書に『都市の記憶を失う前に 建築保存待ったなし!』(白揚社、共著)など多数。

◆ 水沼 淑子 (みずぬま よしこ)

関東学院大学名誉教授。(公社)横浜歴史資産調査会理事。専門は近代日本住宅史。建築家モーガン研究の第一人者。湘南の別荘文化の研究や歴史的建造物の保存活用に詳しい。著書に『J・H・モーガン アメリカと日本を生きた建築家』(関東学院大学出版会)など多数。

◆ 菅 孝能 (すげ たかよし)

㈱山手総合計画研究所会長。藤沢市都市景観審議会会長をはじめ県内自治体の委員を務める傍ら、邸園文化調査団団長、湘南邸園文化祭連絡協議会事務局など多方面で活躍。建築家モーガンの自邸が藤沢市大鋸にあることを広く社会に発信し、保存活用運動のきっかけを作った。

◆ 徳重 淳子 (とくしげ じゅんこ)

NPO 法人旧モーガン邸を守る会会長。旧モーガン邸の豊かな緑と環境を次世代につなぐことを目標に、1999年守る会発足時より会長を務める。毎月の庭園公開でのイベント企画やモーガン邸グッズの開発など、再建のための資金作りに奔走中。

◆ 渡辺 剛治 (わたなべ こうじ)

NPO 法人小田原まちづくり応援団理事。小田原市が所有する歴史的建造物・清閑亭(旧黒田長成侯爵別邸)の館長として管理運営に従事。市との連携や観光協会、商店街連合会などと協働で、清閑亭を拠点とした観光交流の促進や「まち歩き」を通じたまちづくりに取り組んでいる。

◆ 鈴木 美都子 (すずき みつこ)

旧横浜ゴム平塚製造所記念館 八幡山の洋館館長。指定管理者の構成員である NPO 法人ひらつか八幡山の洋館を活かす会で活動している。建物の移築保存に長くかかわってきた。

◆ 栗林 恵美 (くりばやし えみ)

(公財)横浜市緑の協会管理部管理課 俣野別邸庭園園長。昨年度まで俣野別邸館長を務め、今年度から園長。2016年に再建された俣野別邸の管理運営に取り組んできた。旧モーガン邸とも連携してさまざまなイベントを企画している。

◆ 廣田 邦夫 (ひろた くにお)

藤沢市長久保公園みどりの相談員として勤務する傍ら、湘南藤沢文化ネットワーク会長、地元長後で歴史散策の会会長を務める。藤沢市課長時代に旧モーガン邸の保護管理委員会委員を務めて以来、旧モーガン邸を見守り続けている。

◆ 米山 淳一 (よねやま じゅんいち)

公益社団法人横浜歴史資産調査会 常務理事。(財)日本ナショナルトラスト事務局長時代に、旧モーガン邸の取得に向けて藤沢市とともに奮闘。現在は地域遺産プロデューサーとしても活躍中。著書『地域遺産みんなと奮戦記』(学芸出版)、『歴史鉄道酔余の町並み』(駒草出版)他

---